

科学的思考の基盤【文 学】

担当教員	高橋 秀晴	所 属	秋田県立大学
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 日本の近代文学を作品に現れた作家の問題意識を通して捉える。その作業により、人生の普遍的意味について考察することを目指す。なお、具体的到達点としては、以下の2点を想定している。 (1) 小説の読み方に関する基礎理論を理解できる。 (2) 太宰治作品の特徴が指摘できる。			
授業の形式	個人発表と質疑応答を中心とした演習形式。		
成績評価の基準等	発表(40%)、受講態度(10%)及び試験(50%)とによって総合的に判断する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	『きりぎりす』(新潮文庫)	新潮社

【授業計画】

授業回数	履修主題・履修内容	教科書	担当教員
第1回	講義形態、評価について説明する。	①	高 橋
第2回	「燈籠」「姥捨」に託されたメッセージについて考察する。	①	高 橋
第3回	「黄金風景」「畜犬談」の設定意図について考察する。	①	高 橋
第4回	「皮膚と心」「善蔵を思う」に潜在する不安について考察する。	①	高 橋
第5回	「きりぎりす」「佐渡」の文体の特徴について考察する。	①	高 橋
第6回	「千代女」「風の便り」の背後にある文学観について考察する。	①	高 橋
第7回	「水仙」「日の出前」の虚構性について考察する。	①	高 橋

学生へのメッセージ

受講者は1人1作品を選んで10分以内のプレゼンをする。それについて質疑応答をするため、あらかじめ当該作品を読んでおくこと。また、講義外の幅広い読書・思索活動を強く期待する。